



## 令和6年度コミュニティスクール運営状況について

加賀市では、R5年度から市内全ての小中学校でコミュニティスクール(以下CSと略)を導入しております。R6年度に加賀市内教職員及び加賀市内小中学校CSコーディネーター(22校)にアンケートを行い、CSの運営状況を確認しました。以下に報告します。

※ コミュニティスクールの概要については、<https://www.city.iga.shikawa.jp/material/files/group/8/ri-huretto.pdf> をご覧下さい。

## 教職員アンケート結果から(回答数264)

## Q1「学校運営協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ」

	昨年度	→	今年度	
・あてはまる	43.3%		42.3%	・昨年同様、ほとんどの教職員が、学校運営協議会の活動を評価している。
・どちらかといえば、あてはまる	52.5%		54.2%	
・どちらかといえば、あてはまらない	4.2%		3.5%	
・あてはまらない	0.0%		0.0%	

## Q2「地域の人と協力することで、自分の授業の内容の向上につながったことがある」

	昨年度	→	今年度	
・あてはまる	24.6%		30.3%	・昨年以上に、地域の方の協力のおかげで、授業力向上につながったと感じる教職員が増えた。
・どちらかといえば、あてはまる	49.8%		64.1%	
・どちらかといえば、あてはまらない	17.5%		0%	
・あてはまらない	8.1%		5.6%	

## Q3「CSによる学校支援ボランティアのサポートにより、業務負担が軽減されたと実感できた」

	昨年度	→	今年度	
・とても実感できた	12.1%		17.5%	・地域の方のおかげで、業務負担が軽減できたと実感できた教職員が増えた。
・少し実感できた	38.6%		43.6%	
・あまり実感できない	34.0%		28.4%	
・ほとんど実感できない	15.3%		10.5%	

## CSコーディネーターアンケート結果から(回答数19)

## Q4「学校運営の基本方針の承認にあたり、学校運営協議会委員による議論が行うことができた」

	昨年度	→	今年度	
・あてはまる	72.7%		77.8%	・ほとんどの学校で、学校運営について、CSとして議論できている。
・どちらかといえば、あてはまる	22.7%		22.2%	
・どちらかといえば、あてはまらない	4.6%		0.0%	
・あてはまらない	0.0%		0.0%	

## Q5「学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある」

	昨年度	→	今年度	
・あてはまる	50.0%		63.2%	・ほとんどの学校で、学校運営協議会側から、地域の意見を話し合うことができています。
・どちらかといえば、あてはまる	36.4%		36.8%	
・どちらかといえば、あてはまらない	13.6%		0.0%	
・あてはまらない	0.0%		0.0%	

## Q6「地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある」

	昨年度	→	今年度	
・あてはまる	27.3%		21.1%	・昨年度同様、地域住民から運営協議会に学校に対する意見や提案が持ち込まれていない学校が全体の1/3弱ある。
・どちらかといえば、あてはまる	40.9%		47.4%	
・どちらかといえば、あてはまらない	31.8%		31.5%	
・あてはまらない	0.0%		0.0%	

## 〈成果と課題〉

ほとんどの教職員がCSの学校運営協議会についての意義を認める中、「地域の協力のおかげで、授業の内容の向上につながった」と答えた教職員は94%いました。また、「学校の業務軽減」につながったと肯定的に答えた教職員は61%でした。どちらも昨年度よりその数値が増加し、学校側がCSの活動を評価していることがわかりました。

昨年度同様、地域住民から学校運営協議会に学校に対する意見や提案が持ち込まれていない学校が全体の1/3程度あることがわかりました。このことは、学校のCSの取組はまだまだ地域と結びつきが弱く、その活動が学校に還元されていないことがわかりました。

R7年度では、CSの取組を地域の中でさらに理解してもらい、位置づけるよう進めていきます。